



令和5年6月30日

各報道機関 御中

宮崎大学企画総務部
総務広報課長

宮崎大学のトピックス（6月分）の配信について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は地域活性化の中核的役割を果たす大学として日々様々な活動を行っております。その活動の概要は、大学のウェブサイト上にトピックスとして掲載し、幅広く地域の皆様に見ていただけるようしているところです。

そのトピックスを月毎にまとめたものを報道機関の皆様にお配りし、大学の活動を知っていただくとともに、記事として取り上げていただき、より地域の皆様の目に届けたいと思っております。

つきましては、是非一読していただき、取材していただくようお願いいたします。取材にあたっての関係部署との調整・取り次ぎ等は総務広報課広報係にお申し付けください。

敬具

① 発信元

宮崎大学企画総務部総務広報課

TEL : 0985-58-7114 FAX : 0985-58-2886

宮崎大学最近のトピックス（令和5年6月分）

1. 伝えることの大切さを考える ～ NHK 大学セミナーを実施 ～
2. 「常識を超えてゆけ！～肢体不自由児者の可能性～」 第 87 回宮崎大学イブニングセミナーを開催
3. ようこそ宮崎第一中学校 3 年生の皆さん～ 中学生が現役大学生と大学教員と対談 ～
4. 宮崎大学留学生会（MUFSA）による交流イベントを実施
5. 船塚キャンパスの歴史を今に伝える～ 弥勒祐徳氏寄贈絵画展がスタート ～
6. 日本農業新聞(2023.6.8 発行)に本学学生の取り組みが掲載されました
7. 園児が宮崎大学の農場でスイートコーンの収穫体験
8. 在福岡アメリカ領事館広報領事のストレイダー・ペイトン氏が基礎教育科目「現代アメリカ入門」で講義
9. 宮大生が地域に根差したランチパックの開発に挑戦！
10. ようこそクラーク記念国際高校宮崎キャンパス 3 年生の皆さん～ 高校生が現役大学生と大学教員と対談 ～
11. いざというときの備えに～ 外国人留学生と地域住民向け防災セミナーを実施 ～
12. 工学部李根浩（イ グンホ）准教授に研究助成金～ 一樹工業技術奨励会による交付式を実施 ～
13. 高鍋高校 2 年生と飯野高校 1 年生が宮崎大学を訪問
14. 次の 100 年に向かって～農学部卒業生がキャンパス内に植樹～

1. 伝えることの大切さを考える ～ NHK 大学セミナーを実施 ～

令和5年5月30日（火）、宮崎大学創立330 記念交流会館において、NHK 大学セミナーが実施され、地域資源創成学の学生約100名が受講しました。



これは、NHK が各大学に出向いて実施し、一つの番組を制作するまでの裏側や想いを紹介し、大学生と共に考えてもらう出前授業です。今回は、山登宏史ディレクターが講師を務め、NHKの番組で「パパ活女子」・「偽装キラキラ女子」・「宝くじ1億円当選者」など、保守的なイメージの強いNHKでは「攻めた」テーマを取り扱うと言われる「ねほりんぱほりん」を題材に話しが進められました。

その後、「ねほりんぱほりん」の「養子」回を実際に視聴し、「社会課題をどうやってわかりやすく伝えることができるのか」、具体的な工夫点を紹介する一方で、「逆に誰かを苦しめてしまう人はいないのか」など、色んな角度からの視点で自問自答を繰り返して制作に取り組むディレクターとしての使命を覚悟についてお話いただきました。

質疑の時間では、時間いっぱいまで学生から質問が投げかけられるなど、学生にとっても考えさせられる非常に有意義な時間となったようでした。

2. 「常識を超えてゆけ！～肢体不自由児者の可能性～」 第87回宮崎大学イブニングセミナーを開催

令和5年5月30日（火）、宮崎大学イブニングセミナーをZoomでオンライン開催し、一般の方を含め教職員・学生約50名が参加しました。

本セミナーは、本学各部署に在籍する研究者が、各分野での研究内容やその研究成果等を理解し、協働した教育・研究等を実施する契機とするとともに、地域の皆様と本学の知的資源を共有し、地域社会との連携を一層深めることを目的に実施するもので、2004年3月に始まりました。

第87回目となった今回は、「常識を超えてゆけ！～肢体不自由児者の可能性～」と題し、肢体不自由児者の教育・工学機器開発・スポーツの取り組みを支援する教育・実践に携わる教員3名が発表し、実りあるセミナーとなりました。

「すべての人に健康と福祉を」、そして「質の高い教育をみんなに」。

宮崎大学の強みである異分野融合の研究を協力に進め、様々な課題の解決にお役にたてるよう、挑戦を続けてまいります。



（発表者とテーマは以下のとおり）

- 尾崎 充希（教育学部講師）
「子ども一人ひとりの“やってみよう！”をひきだす 肢体不自由児教育の実現に向けて」
- 田村 宏樹（工学部教授）
「視線入力装置を用いた重度障がい者視線判定への挑戦」
- 荒川 英樹（医学部附属病院教授）
「パラスポーツの現状と展望～パラスポーツの常識を超えていく～」

3. ようこそ宮崎第一中学校3年生の皆さん～ 中学生が現役大学生と大学教員と対談 ～

令和5年5月31日（水）、宮崎第一中学校3年生95名にキャリア教育活動の一環で宮崎大学を訪問していただき、同校の卒業生を含めた現役大学生と大学教員に様々な質問をぶつけてもらいました。

始めに、「宮崎大学の学生は何人いるの？」「宮崎大学の教職員は何人いるの？」「宮崎第一高校の卒業生は宮崎大学に何人いるの？」などの簡単なクイズ形式で、大学全体について知ってもらい、その後、教育学部・地域資源創成学部・農学部の紹介を大学生・教員との座談会を交えながら行いました。

「高校と大学の違い」や「中学生のうちにとどの様なことをやっておいた方がいいの？」などの中学生からの質問に対して、大学生と教員が丁寧に回答。実際に大学のキャンパスに来て、大学生と教員と直接対談できたことは、中学生の皆さんにとって有意義な時間となったようでした。



4. 宮崎大学留学生会 (MUFSA) による交流イベントを実施

令和5年5月31日(水)、宮崎大学外国人留学生会「MUFSA」が企画・運営したクイズ大会「Find the Faker」が地域デザイン棟で行われ、外国人留学生ならびに日本人学生を含めて約30名が参加しました。

MUFSAは、以前からあった外国人留学生で構成される任意団体ですが、新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延による行動制限の影響で活動範囲の縮小を余儀なくされてきました。しかし、令和5年5月から、行動制限が大幅に緩和され、外国人留学生の有志により活動を再開しようという流れになり、活動再開後初めてとなるイベントとして今回の「Find the Faker」が実施されました。

「Find the Faker」は出身国の文化を紹介する3人のうちの誰かがFaker(うそつき)であるかを当てるクイズで、参加者は楽しみながら異文化を学びました。MUFSAの会長で今回のイベントの主催した Josue Rodriguez さんは今回のイベントや今後の展開についてこう述べています「新生 MUFSA としての最初のイベントは無事成功に終わりました。人数的な制約や忙しいスケジュールにもかかわらず、よく頑張れたと思います。今後は、大学内の様々なコミュニティとの交流の機会を視野に、さらに成長を続け、もっと多くの人に参加してもらえるようにできればと願っています。」

イベント後、参加した学生の中からは「自分から留学生の方に声をかけるのは難しく、今日のようなイベントは交流のいいきっかけになった」「今後もこのような国際的なイベントがあれば参加したい。」といった感想があり、今後の MUFSA への期待の高さがうかがえました。



5. 船塚キャンパスの歴史を今に伝える～ 弥勒祐徳氏寄贈絵画展がスタート ～

令和5年6月1日(木)、宮崎大学附属図書館本館において、西都市出身の画家である弥勒祐徳(みろく すけのり)氏が旧宮崎大学教育学部棟(船塚キャンパス)を描いた絵画の展示が始まりました。

弥勒氏は、現在の木花キャンパスに移転する前の1980年代に教育学部の講師として在籍。移転により取り壊される、古き良きキャンパスの思い出を残そうと11枚の絵画(油絵)におさめ、これまで自宅で保管されていましたが、令和5年に入り、11枚全ての貴重な絵画を宮崎大学に寄贈していただくことになりました。

附属図書館本館正面入口の展示ブースの完成に合わせて本絵画展が開始されることになり、6月1日に行われた記念式典には弥勒祐徳氏の長男である弥勒猛氏をはじめ、宮崎師範学校・宮崎大学教育学部同窓会(木犀会)の会長である橋口玄朗氏および同事務局長の熊本新一氏にも来賓として出席していただきました。

石川千佳子附属図書館長からは、「この図書館に美術館のような展示スペース(takara-baco)を作りたいというかねてからの想いが実現し、弥勒先生からいただいた本学と縁の深い11枚の絵画を展示できて非常に嬉しく思います」と述べられ、鮫島浩学長からも「(寄贈いただいた絵画を通じて)記録の重要性を再確認することができました。この貴重な記録を、ここで過ごした方はもちろん、一般の方や若い人たちにも観てもらいたい」と御礼の言葉が述べられました。

最後に、弥勒猛氏から「4年前の100歳展の時にたまたま見つけたこの絵画が、このように宮崎大学内で展示していただけることになり、父も大変喜んでます。ここで過ごした人たちの喜怒哀楽が映し出された校舎の絵から何か語りかけるものがあると思う。それを多くの人たちに感じ取ってほしい」と、父である祐徳氏の気持ちを代弁するように謝辞が述べられました。

今回完成した展示ブースは、温湿度管理と照明光度管理が可能で施錠ができる展示ケースを兼ね備えており、貴重図書や美術小作品等の展示にも対応可能となりました。これにより、図書と絵画を一体化して展示することもできます。附属図書館では、今後も様々な形で企画展示を行い、本学所蔵の貴重資料等の発信や地域との連携を通して、文化と芸術の香り溢れるキャンパスづくりを進めて行くこととしています。なお、絵画展は6/15(木)まで開催しており、一般の方も入場できます。



6. 日本農業新聞(2023.6.8発行)に本学学生の取り組みが掲載されました

日本農業新聞(2023年6月8日)において、本学大学院工学研究科1年生の魚住龍太郎さんと平江海人さんらのプロジェクトチームが取り組む『農業散布ロボット“Mister King”~マンゴーを護れ!!害虫駆除作戦~』が紹介されています!

この取り組みは、『とっても元気!宮大チャレンジ・プログラム』という将来、社会でリーダーとして活躍する宮大生の企画力や実践力を高めることを目的に、学生が興味・関心を掘り下げたプログラムを企画し発表するというプログラムで2022年度の最高賞を受賞したプロジェクトです。

農家のニーズに沿った農業散布ロボットの開発プロジェクトとして、実際に市内の果樹園で評価試験を行い、既存のロボットにはなかった効率的な散布方法を実現するために試行錯誤しながら、一から自分たちの手で作り上げられたのがこの「Mister King」です。

今回は実際に現地で取材をしていただき、記事を掲載していただいておりますので、是非ご覧いただければ幸いです。



7. 園児が宮崎大学の農場でスイートコーンの収穫体験

令和5年6月14日(水)、ゆにのもり保育園の園児25名が宮崎大学農学部フィールドセンターを訪れ、スイートコーンの収穫体験を行いました。

スイートコーンは、近年になって全国各地で栽培されるようになり、宮崎県は都道府県別に見ると10位以内の生産量となっています。農学部附属フィールドセンター

(木花)においても、学生実習の一環でスイートコーンを栽培していて、一部は大学内で販売されるほか、地域の保育園や幼稚園の児童を対象に収穫体験を実施してきました。

収穫体験当日は、心配された天気も持ちこたえ、園児の皆さんには歓声を上げながら、楽しそうに収穫をしていただきました。園児の皆さんが、スイートコーンを自宅に持ち帰って、保護者の皆さんと美味しく食べてくれる様子を想像するだけでワクワクします。

宮崎大学では、様々な体験を通して「食材のありがたさ」や「食べる喜び」を楽しみながら知ってもらい、食育活動を推進していくこととしています。



8. 在福岡アメリカ領事館広報領事のストレイダー・ペイトン氏が基礎教育科目「現代アメリカ入門」で講義

令和5年6月14日(水)、宮崎大学を訪問した福岡アメリカ領事館広報領事のストレイダー・ペイトン氏が、基礎教育科目『現代アメリカ入門』の一環として、学生約50人に対して講義を行いました。

ペイトン広報領事は、在福岡米国領事館の業務や外交官の役割について、自らの経験をもとに異文化理解の重要性も触れながら講義を行い、学生からは外交官の仕事内容に関する質問や意見交換が、英語と日本語を交えて行われました。

講義を受けた学生からは、「ペイトン広報領事から外交や国際政治について学ぶだけでなく、外交官の仕事内容を聞いて、将来的に海外留学に挑戦してみたいと思いました」といった感想が寄せられ、学生達は、講義を通じて国際社会への興味や理解を深めることができました。

講義終了後、ペイトン広報領事は、米国国務省の助成金で実施された『米国大学集中英語プログラム』を修了した学生と意見交換を実施。その後、村上啓介副学長(国際連携担当)および河野久助教と共に、鮫島浩学長および新地辰朗理事(教育・学生担当)を訪問し、在福岡アメリカ領事館と宮崎大学の協力に関する協議が行われました。



9. 宮大生が地域に根差したランチパックの開発に挑戦!

令和5年6月15日(木)、地域デザイン棟(木花キャンパス)にて地域資源創成学部3年生4人と山崎製パン株式会社の担当者が集まり、宮崎大学オリジナルランチパックの開発に係る第2回目となるミーティングが行われました。

ランチパックは、山崎製パンさんが1984年に発売を開始して以来、2000種類以上が発売されたロングセラー商品で、日本人の多くの人に親しまれています。第1回目のミーティングでは、宮崎名物のチーズ饅頭をイメージしたクリームチーズ味や日向黒皮かぼちゃをイメージしたかぼちゃのポテトサラダや宮崎県の特産品である日向夏やマンゴーを使用した製品などを学生側から提案。それを受けて、山崎製パンさんに、実際に試



作品やアイデアを活かした代替品を準備していただき、試食・意見交換を行いました。

製品化にあたり、「食感やこの味を2枚全部食べ切れるか」、「食べなくなる味か」、など色々な視点から意見が出され、宮崎大学らしさをどのように取り入れるか、学生たちは商品開発の難しさを痛感しながら、様々なアイデアを出していました。

今後も、意見交換を重ねながら製品内容の決定やパッケージの決定を進めていくこととして、11月頃を目処に発売することを目指しています。

10. ようこそクラーク記念国際高校宮崎キャンパス3年生の皆さん～ 高校生が現役大学生と大学教員と対談～

令和5年6月16日(金)、クラーク記念国際高等学校連携校宮崎キャンパス3年生40名に宮崎大学を訪問していただき、現役大学生や大学教員と質問形式で学部紹介を行いました。

同校は、「少年よ大志を抱け」の言葉で有名なクラーク博士の精神を理念に、全国50カ所以上で教育を展開している高等学校の一つで、通信制でありながら全日制スタイルを取り入れた高等学校です。始めに、宮崎大学全体に関する概要説明を行い、続いて、2グループに分かれて教育学部と地域資源創成学部の紹介を大学生・教員との座談会を交えながら行いました。

「高校と大学の違い」や「大学ではどんなことを勉強するの？」などの高校生からの質問に対して、大学生と教員が丁寧に回答。実際に大学のキャンパスに来て、大学生と教員と直接対談できたことは、高校生の皆さんにとって有意義な時間となったようでした。



11. いざというときの備えに～ 外国人留学生と地域住民向け防災セミナーを実施～

令和5年6月17日(土)、外国人留学生と地域住民に向けた防災セミナー「つながる防災セミナー」が開催され、外国人留学生とその家族、日本人学生、地域住民など合わせて22名が参加しました。

今回のセミナーは、宮崎市役所、JICA九州、宮崎大学国際連携センターの共催で実施され、台風や地震などの自然災害の多い日本で生活するうえで、災害時も、自らの安全を確保するために必要不可欠な知識などを身につけてもらうことを目的としています。

参加者からは、「母国でこのような防災に関するセミナーを受講したことがなかったので、非常に勉強になった」、「実際に防災グッズやハザードマップを見て、どのような備えをしたら良いか理解を深めることができた」、「雨量計等、初めて見る機器に興味深かった」等の感想が寄せられ、セミナーを通じて実際に五感を使いながら防災に関する意識を高めることができました。

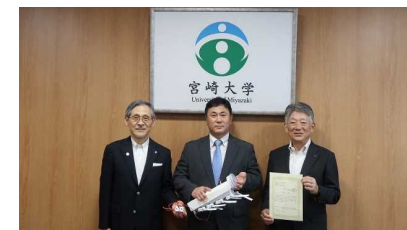


12. 工学部李根浩(イ グンホ)准教授に研究助成金～ 一樹工業技術奨励会による交付式を実施～

令和5年6月19日(月)、一般財団法人一樹工業技術奨励会による助成先通知書交付式が宮崎大学長室で行われました。

2023年度は、6つの高等教育機関に在籍する研究者の研究テーマが助成を受けることになり、本学からは李根浩准教授(工学部)の研究テーマ「エビの遊泳動作を用いた3Dパドル式推進手法の創出と水中ロボットメカニズムへの挑戦」と内山良一教授(工学部)の研究テーマ「肺がんの早期検出と治療を支援するAI技術の開発」が助成を受けることになり、宮崎日機装株式会社代表取締役社長で同財団の理事を務める長門祥一氏から通知書が手渡されました。

交付式には、鮫島浩宮崎大学長も同席したほか、宮崎日機装株式会社から清水裕之取締役にも同席いただき、代表して李根浩准教授通知書を受け取り、長門社長から「日機装株式会社の創始者と創業者の遺志を反映して、お二人のユニークで工業技術発展の可能性を秘めた研究を助成させてもらうことになりました」と、激励の言葉が贈られ、李根浩准教授からも御礼の言葉が述べられました。



13. 高鍋高校2年生と飯野高校1年生が宮崎大学を訪問

令和5年6月21日（水）、宮崎県立高鍋高等学校2年生約70名と宮崎県立飯野高等学校1年生17名に宮崎大学を訪問していただきました。

高鍋高校は100年以上の歴史を持つ伝統校。ラグビーや野球などの部活動も盛んで、文武両道を基本とする普通科高校です。始めに、宮崎大学全体に関する概要説明を行い、続いて、生徒の興味・関心に合わせる形で5グループ（教育学部・医学部看護学科・工学部・農学部・地域資源創成学部）に分かれて、大学生や大学教員との意見交換を交えながら、大学について学んでいただきました。

飯野高校は、宮崎県えびの市にあり、全国から生徒を募集する「地域みらい留学制度」を先駆けて取り入れ、その特色あるシステムとプログラムが全国から注目を集めています。今回は、「地域みらい留学制度」で飯野高校に入学した生徒を含む1年生17名が宮崎大学を訪問。工学部工学科情報通信工学プログラムの井上健太郎准教授が大学全体のことや工学部の特徴について説明した後、工学部学生との意見交換を行ったほか、大学生がガイドを務めてキャンパス散策を行い、学生食堂で昼食を取ってもらいました。

昼食後、工学部1年の戸谷大河さん（飯野高校卒業生）が参加し、後輩達と対談する時間も。戸谷さんは東京出身で、地域みらい留学生の制度を利用して飯野高校に入学していて、卒業後は宮崎大学に入学しています。戸谷さんからは、「高校時代にやっておいた方がよいこと」や「大学受験を考える上で大切なこと」などを語っていただき、高校生達は熱心に聞き入っていました。



14. 次の100年に向かって～農学部卒業生がキャンパス内に植樹～

令和5年6月26日（月）、一般財団法人みやざき公園協会の職員で、宮崎大学農学部の卒業生である6名が木花キャンパスを訪れ、ジャカランダの植樹を行いました。

これは、宮崎県とみやざき公園協会が連携して、熱帯花木のジャカランダやイペーの花を各地に植樹するプロジェクトの一環として行われ、花いっぱいの景観づくりにつなげることを目指しています。

今回植樹されたジャカランダは、6月上旬に青紫色の花を咲かせる中南米原産の落葉高木で、一年後には早速花を咲かせることが予想されています。令和6年は、宮崎大学農学部の創立100周年記念にあたる節目の年で、今回、農学部卒業生によって植樹されたジャカランダと既に毎年花を咲かせているイペーの花（例年4月開花）が100周年の歴史に豊かな色を添えてくれるものと思います。

